

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名： 総社市

1. 事業名称

・総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業

2. 事業の目的

・地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

3. 事業内容の概要

・多様な機関等との連携・協力による日本語教育の実施を【取組 1】「地域でつながる日本語教室」として、取組の成果の発信及び住民の日本語教育への理解の促進として【取組 2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」を、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備の推進として、【取組 3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」、【取組 4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」を行い、地域の多文化共生施策を推進するとともに、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築を行う。

4. 事業の実施体制について

・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署との連携により行う外国人向け体験学習・講習会の実施、AMDA グループとの多文化共生に関する協定に基づく地域医療機関との連携事業・防災教室の実施、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントの開催・地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育て NPO 法人との連携による子育て応援事業の実施、岡山県内・近隣地域(広島県、香川県、兵庫県、鳥取県)の日本語教室との連携による講師招聘や教室視察・交流・情報交換活動、岡山大学、ノートルダム清心女子大学など日本語教員養成課程を持つ県内の大学との連携による若手人材育成や日本語教育専門家との情報交換等、地域相互連携支援体制を整えている。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	林 圭一	総社市人権・まちづくり課
2	中東 靖恵	岡山大学大学院社会文化科学研究科
3	平松 秀昭	総社市地域コミュニティ連絡協議会
4	樂木 章子	岡山県立大学保健福祉学部
5	尾崎 喜光	ノートルダム清心女子大学文学部

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 5 月 14 日(木) 18:30-20:30	2 時間	岡山県国際交流センター4 階	林 圭一 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成 27 年度総社市日本語教育事業の目的・事業概要の説明 2. 各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業)についての概要, 年間スケジュールの説明 3. 日本語教室・サポーター育成研修への受講者申し込み状況の報告等
2	平成 27 年 9 月 28 日(月) 16:30-18:30	2 時間	総社市役所 本庁舎 2 階会議室	林 圭一 中東 靖恵 平松 秀昭 尾崎 喜光	1. 平成 27 年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業)についての現状, 進行状況の報告 2. 中間アンケートの結果報告 3. 各取り組みについての課題等の検討
3	平成 28 年 3 月 9 日(月) 15:00-17:00	2 時間	総社市役所 本庁舎 2 階第 2 委員会室	林 圭一 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成 27 年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練事業, 子育て応援事業)についての最終報告 2. 最終アンケートの結果報告 3. 今年度事業の反省 4. 次年度事業への課題等の検討

6. 取組についての報告

取組1:地域でつながる日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら, 日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに, 日本の文化・習慣および医療・防災などの行政情報を得, 地域住民としての自立と地域社会への積極的参加を促す。

(2) 取組内容

・地域社会での日常生活に必要とされる日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図るとともに, 講習会や体験学習, 防災訓練等のイベントへの参加を通して日本人住民との交流を促進し, 地域生活を営む上で不可欠な保健・医療・福祉・教育・防災などの各種行政情報を得ることのできる日本語教室を開設する。

(3) 対象者

・地域に居住する外国人住民(母語, 国籍は問わない)

(4) 参加者の総数 91 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 91 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
47	0	15	14	1	1	1	5	1	2

※その他の国籍と人数: ジャマイカ 2 人, ミャンマー 1 人, パナマ 1 人

(5) 開催時間数(回数)

・ 70 時間 (2 時間 × 全 35 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 14 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	29 人	自己紹介	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や語彙について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	譚 俊偉 赤澤 春香
2	平成 27 年 6 月 21 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	24 人	ごみの出し方・公共マナーを理解する	ごみの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な語彙・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】環境課職員によるごみ分別講習	高田 聡 船曳 清美	譚 俊偉 赤澤 春香
3	平成 27 年 6 月 28 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	25 人	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び、市職員を相手に電話で外国人相談員を呼ぶ実践練習をした。 【イベント】エコバッグを作る	三浦 温子 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
4	平成 27 年 7 月 5 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	19 人	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	小川 宏子 船曳 清美	譚 俊偉 赤澤 春香
5	平成 27 年 7 月 12 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	16 人	浴衣の着付け講習	日本伝統文化である浴衣について学び、実際に学習者・サポーターと一緒に浴衣を着付け合った。	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
6	平成 27 年 7 月 19 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	17 人	公共交通機関の利用方法	公共交通機関の予約方法や時間の表示方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】デマンドタクシー「雪舟くん」利用説明	船曳 清美 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香
7	平成 27 年 7 月 26 日(日) 8:00-10:00	2 時間	常盤公園	-	地域コミュニティ連携防災訓練	地域コミュニティ連携防災訓練に参加し、日本人住民と一緒に防災について学んだ。	譚 俊偉	譚 俊偉 赤澤 春香
8	平成 27 年 8 月 2 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	23 人	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	宮崎 聡子 長畑 太子 松本 真明	譚 俊偉 赤澤 春香

9	平成 27 年 8 月 9 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	16 人	日本のマナ ーを知る	日本の葬式に関する習慣(香 典, 焼香, 服装など)や決まり 文句について学んだ。 【イベント】お葬式のマナーを 学ぶ	船曳 清美 加藤佳寿美 小池 邦宏	譚 俊偉
10	平成 27 年 8 月 23 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社宮	23 人	総 社 の 行 事・イベント に参加する	地元の行事「総社力石」に参 加した。	宮崎 聡子 長畑 太子	譚 俊偉 赤澤 春香
11	平成 27 年 8 月 30 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	21 人	メニューを 読んで理解 する	レストランや飲食店のメニュ ーを読むために必要な語彙と 注文をする際に必要な表現 を学んだ。 【イベント】食べ物の名前ゲー ム	小川 宏子 高田 聡	譚 俊偉
12	平成 27 年 9 月 6 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	18 人	総社市役所 の窓口で相 談する・書 類を書く	総社市役所での窓口相談に 必要な表現を学び, 市役所 の書類を使用して書類を書く 練習をした。 【イベント】「あ」から始まる言 葉ゲーム	三浦 温子 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
13	平成 27 年 9 月 13 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	18 人	サイズ・色・ 素材を尋ね て購入する	洋服や靴などのサイズ・色・ 素材を尋ねて購入するのに 必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言 葉ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	赤澤 春香
14	平成 27 年 9 月 20 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	21 人	交通ルー ル・交通マ ナーを学ぶ	道路標識の種類・意味や, 日 本の交通ルール・交通マナー に関する語彙・表現を学ん だ。 【イベント】交通安全・交通マ ナー講習	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
15	平成 27 年 9 月 27 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	15 人	日本・岡山 の観光地, 名物名産を 知る	日本国内・岡山県内の観光 地・祭り・イベントや名物名産 について知り, それらの情報 を得るための表現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準 備	船曳 清美 三浦 温子	赤澤 春香
16	平成 27 年 10 月 4 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	26 人	交通事故・ 犯罪事件で 110 番・119 番に電話す る	交通事故・犯罪事件で 110 番・119 番に電話通報するた めに必要な表現を学び, 実践 練習をした。 【イベント】中間アンケート	船曳 清美 三浦 温子	赤澤 春香
17	平成 27 年 10 月 11 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	17 人	警察見学・ 防犯教室	総社警察署で交通事故や犯 罪事件に遭遇した場合の対 処方法を学び, 110 番に通報 する練習をした。	小川 宏子 長畑 太子	譚 俊偉 赤澤 春香
18	平成 27 年 10 月 17 日(土) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	-	国際交流イ ベントに参 加する	カミガツジプラザで開催され た「総社インターナショナルフ ェスタ」で, 各国料理販売, 歌 や踊りのステージに参加し た。	-	-
19	平成 27 年 10 月 25 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	18 人	美容院・理 髪店に行く	美容院・理容院で使用する語 彙・表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まるこ とばゲーム	小川 宏子 三浦 温子	赤澤 春香

20	平成 27 年 11 月 1 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	19 人	症状に合 わせた病院探 し・初診受 付をする	症状に合わせた病院を探し、 病院での初診手続きを行うの に必要な表現を学んだ。 【イベント】岡山大学の学生と 会話する	船曳 清美 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香
21	平成 27 年 11 月 8 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市中央 公民館	19 人	茶道を習う	日本文化の一つである茶道 を習った。お茶のたて方、飲 み方、礼儀作法も学んだ。	船曳 清美 宮崎 聡子 加藤三智子	譚 俊偉 赤澤 春香
22	平成 27 年 11 月 15 日(日) 9:30-11:30	2 時間	維新小学校	16 人	防災訓練に 参加する	総社市主催の防災訓練に日 本語教室として参加し、土の う積み訓練、煙体験、消火訓 練などを体験した。	-	-
23	平成 27 年 11 月 22 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	21 人	医者診察を 受ける・病 気への対 処法	病院で診察を受ける際に必 要な語彙・表現を学び、実際 の診察室で実践練習をした。 【イベント】倉吉市からの見学 者と合同で「は」から始まるこ とばゲーム	高田 聡 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香
24	平成 27 年 11 月 29 日(日) 9:30-11:30	2 時間	高杉こども クリニック	16 人	病院見学・ 病院での受 付・診察体 験	総社市内にある病院で病院 見学を行うとともに、病院で の受付・診察を模擬体験し た。	加藤佳寿美 長畑 太子 高杉 尚志	赤澤 春香
25	平成 27 年 12 月 6 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	17 人	買い物を体 験する	日常生活の活動として頻度 の高い「買い物」を取り上げ、 買い物行為に必要な語彙・表 現を学び、シミュレーションを 行った。 【イベント】買い物ゲーム	小川 宏子 長畑 太子	赤澤 春香
26	平成 27 年 12 月 13 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター、 総社市立図 書館	17 人	図書館・レ ンタルショ ップの利用 方法・図書 館見学	本や DVD を借りる時や返却 する時に使う語彙・表現を学 んだ。 【イベント】総社市立図書館見 学	高田 聡 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香
27	平成 27 年 12 月 20 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	16 人	年賀状を書 く	年末年始に使うきまり文句や 表現を学び、日本の年末行 事として年賀状を書く体験を した。 【イベント】年末茶話会	小川 宏子 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
28	平成 28 年 1 月 10 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	19 人	慶事の文化 風習・マナ ーを学ぶ	日本の結婚式に関する習慣 (祝儀、服装など)や決まり文 句について学んだ。 【イベント】獅子舞	船曳 清美 三浦 温子	譚 俊偉(1 時間) 赤澤 春香
29	平成 28 年 1 月 17 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	11 人	職場でのあ いさつ・こ とばづかい を理解する	職場での丁寧な言葉づかい やあいさつ表現、履歴書の書 き方を学んだ。 【イベント】「き」から始まるこ とばゲーム	小川 宏子 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香
30	平成 28 年 1 月 24 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	11 人	道を尋ね る、道を教 える	道を尋ねたり、道を教えたり するために、場所や道順を教 える語彙や表現を学んだ。 【イベント】かるた	高田 聡 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香
31	平成 28 年 1 月 31 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社消防署	15 人	消防署見 学、火災で 110・119 番 に電話する	総社市消防署で 110 番・119 番に通報する方法や防災に ついて学び、消火訓練を行っ た。	加藤佳寿美 長畑 太子	譚 俊偉 赤澤 春香

32	平成 28 年 2 月 7 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	13 人	薬局を利用 する。薬の 説明を理解 する	薬の種類、薬袋や処方箋に 書かれてある語彙・表現を市 販の薬など実物を利用して学 んだ。 【イベント】節分の歌・豆まき	小川 宏子 三浦 温子	赤澤 春香
33	平成 28 年 2 月 14 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	19 人	学校の制度 や学校の行 事を知る	日本の学校制度や学校行事 に関する語彙、季節・時間 に関する表現を学んだ。 【イベント】借り物競争	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
34	平成 28 年 2 月 21 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	17 人	日本の一年	日本の年中行事や祝日につ いて、具体的な行事の内容 や風習、謂れなどについて学 んだ。 【イベント】最終アンケート	船曳 清美 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香
35	平成 28 年 3 月 6 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	26 人	引っ越しの あいさつを する	公共マナーと、引っ越しの際 に使う決まり文句や引っ越し のあいさつ時に贈る物につ いて学んだ。 【イベント】合同修了式	小川 宏子 三浦 温子	譚 俊偉 赤澤 春香

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 2 回 平成 27 年 6 月 21 日】

ごみの出し方・公共マナーを理解する

講師:総社市環境水道部環境課美化推進係 係長 山本 竜三

総社市環境水道部環境課美化推進係 主事 新谷 紗季子

総社市のゴミの分別・回収方法, 収集日について, レアリアを使用しながら市職員が説明した。



取組事例②

【第 14 回 平成 27 年 9 月 20 日】

交通ルール・交通マナーを学ぶ

講師:総社市市民生活部交通政策課 主事 丹下加奈子

交通安全指導員 竹下加奈子, 岩本多加子

総社警察署 交通課企画係長 有政 伸英 警部補

市職員による交通安全講習が行われ, 標識を使った神経衰弱ゲーム等を通じ交通マナーを学んだ。



(8) 目標の達成状況・成果

・昨年度に引き続き、地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 27 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(30 単位)に従い、学習シラバス(2 時間×35 回=70 時間)を作成して授業を行った。毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでのコーディネーター・教授者・日本語学習サポーター・市職員との話し合い、日本語教室受講者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により、以下に挙げるような一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ①日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上:日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果、日本語の 4 技能(聞く・話す・読む・書く)における能力向上,きちんとした日本語が使えるようになった,日本の文化や習慣を知ることができたと感じる者が多かった。また,日本語教室が楽しい,日本語を使って日本人としゃべる機会が増えた,日本人と交流する機会が増えたと回答している受講者が多く,日本語教室が「日本語を使って住民同士が交流する場」として機能しており,教室参加が受講者の日本語コミュニケーション能力向上を促進する役割を果たしていることを確認することができた。
- ②地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供:総社市日本語教室における外国人向け体験学習・講習会の実施は総社市各担当部署との連携により,また,その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は,岡山県内の NPO,各種機関・団体との連携により行った。

(ア)総社市各担当部署との連携

- 環境課美化推進係によるゴミ分別講習(平成 27 年 6 月 21 日)
- 交通政策課による「雪舟くん」利用講習(平成 27 年 7 月 19 日)
- 総社市主催の夏祭り「雪舟フェスタ」への参加(平成 27 年 8 月 1 日)
- 交通政策課・総社警察署による交通安全講習(平成 27 年 9 月 20 日)
- 総社警察署による防犯教室(平成 27 年 10 月 11 日)
- 総社市防災訓練への参加(平成 27 年 11 月 15 日)
- 総社市図書館司書による図書館利用講習(平成 27 年 12 月 13 日)
- 総社市消防本部による消防署見学・消火訓練(平成 28 年 1 月 31 日)

(イ)岡山県内の NPO,各種機関・団体との連携

- 徳眞書道教室講師による日本語教室での書道講習(平成 27 年 8 月 2 日)
- (株)いのうえの講師による弔事のマナー講習(平成 27 年 8 月 9 日)
- 茶道講師による茶道講座(平成 27 年 11 月 8 日)
- 高杉こどもクリニックでの病院見学・受診体験(平成 27 年 11 月 29 日)

- ③地域住民同士がつながる場の提供:今年度も引き続き、「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」における研修の一環として、地域に暮らす日本人住民が、外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」として日本語教室に参加することにより、教室内でより細かなサポートを行えるようにするとともに、「地域住民同士がつながる場」として日本語教室が機能するよう、外国人住民と日本人住民との交流を促す試みを行った。日本語教室受講者の日本語能力のレベル差が大きいことから、教室活動における日本語学習サポーターの役割は大きく、また、地域で顔を合わせる機会の多い地域住民であること、継続して参加するサポーターの存在もあり、受講者との関係性の構築や教室内でのサポートの方法などの面で、この仕組みがより一層うまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられた。
- ④地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り:今年度は10月17日(土)に行われたSOJA INTERNATIONAL FESTA会場に日本語教室のパネル展示を行い、日本語教室活動の様子が多くの市民の目に触れることとなった。地域社会に対して外国人支援活動に対する理解を求めるとともに、日本語教室が地域に暮らす外国人住民と日本人住民をつなぐ場となり、地域住民による外国人支援活動を地域社会に根付かせることができるよう今後も引き続き日本語教室活動の一環として行っていきたい。

(9)今後の改善点について

- ①日本語教室の授業内容・教授方法:昨年度の反省を踏まえ、改訂を行った「平成27年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」に従って授業シラバスを作成した。各テーマを担当する日本語教授者を昨年度とできるだけ入れ替え、授業内容にバリエーションを持たせるよう工夫した。また、1回完結型の会話コミュニケーション重視の授業形態は、受講者に対して「いつ来ても日本語教室に参加できる」という安心感を与えることができるものだと再認識できた。
- ②日本語教室の運営・実施体制:
- ア)複数の日本語教授者によるローテーション体制:今年度においては、7人の有資格者によるローテーション体制によって教室運営を行った。各授業担当者がメールで授業報告(受講者人数、受講者の国籍・日本語レベル等、授業で扱った文型・内容、授業中気になったこと)をすることで、授業内容の確認、引き継ぎ、情報共有を行った。日本語教育の質を確保するため、本市事業においては有資格者で、教歴が長く、かつ、多様な形態での教授経験を持つ日本語教師を教授者として配置しているが、教授者の評判が大変良いので、今後も引き続き有資格者による日本語教室運営を行っていきたい。
- イ)日本語学習サポーターの教室参加:H24年度から、人材の養成・研修の一環として、地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在(=サポーター)として参加するという形態をとっているが、4年が過ぎた今、その仕組みが定着し、円滑に機能している。日本語学習サポーターによるきめ細やかな補助を行いながら、教室運営をしていくという方法は、地域日本語教育の教室運営の在り方の一つとして有効であることが実感できた。
- ③日本語教室の受講者:本市では、できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう、小さな子供のいる家庭でも日本語教室に参加できるよう、無料で保育・託児を設けている。また、授業内容や授業の方法においてさまざまな工夫を行い、常に授業改善を行っている。その成果もあり、受講者登録者数が90名を超え、毎回の授業参加者数も安定はしていたが、1年を通じて受講した人は少なく、教室に継続して来ることが難しい現実も明らかとなった。また、今年度はベトナム人技能実習生の増加が顕著であったことから、今後の外国人事情の動向も踏まえつつ事業の方向性を考えたい。

取組2:地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに、外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら、多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行う。

(2) 取組内容

・地域住民を対象に、地域における外国人住民の状況や日本語指導の概要、外国人住民と接する際に必要な「やさしい日本語」の指導など、外国人支援に関する基礎的知識を教授するとともに、本市の日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう。

(3) 対象者

・外国人住民の支援に関心のある地域住民(日本人住民、日本語が堪能な外国人住民)

(4) 参加者の総数 17 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	0	0	0	0	0	0	0	17

※その他の国籍と人数:なし

(5) 開催時間数(回数)

・ 31 時間 (下記(ア)(イ)の合計)

(ア)学習研修:1回2時間×6回のうち、3回(2時間×3回=6時間)以上参加

(イ)実践研修:1回2.5時間(日本語教室:2時間、ミーティング:0.5時間=2.5時間)×35回のうち、10回(2.5時間×10回=25時間)以上参加

(6) 活動の内容

(6)-1:職員を対象とした「やさしい日本語研修」

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 7月7日(火) 13:30~15:30	2時間	総社市総合福祉センター	35人	職員向け「やさしい日本語」講座	市役所で使用する文書を「やさしい日本語」に書き換えるワークショップ	水野マリ子	斎藤 明子

(6)-2:学習研修:日本語教育に関する研修を受講

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 6月7日(日) 13:30-15:30	2時間	総社市保健センター	11人	総社市における多文化共生施策の概要	総社市における外国人事情・多文化共生施策の概要、平成27年度総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業概要と日本語学習サポーターの役割	中東 靖恵 渡邊 康広	-

2	平成 27 年 7 月 5 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	11 人	「やさしい日 本語」講座	「やさしい日本語」の作り方, 自分たちの考えた「やさしい 日本語」が外国人に通じるか 検証するワークショップ	福井 武司	-
3	平成 27 年 8 月 9 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	10 人	日本語を知 ろう①音声	音声からみる日本語, 外国 人が発する日本語の特徴を 聞くワークショップ	中東 靖恵	-
4	平成 27 年 9 月 13 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	日本語を知 ろう②語彙 文法	普段何気なく使っている日本 語のルール(文法)について 考えるワークショップ	宮崎 聡子	-
5	平成 27 年 10 月 25 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	4 人	日本語を知 ろう③教授 法	学習者からの質問への答え 方のポイントを考えるワー クショップ	三浦 温子	-
6	平成 27 年 12 月 6 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	総社に暮ら す外国人住 民と日本語 学習サポ ーター交流 会	外国人学習者による各国紹 介, 学習者とサポーターの交 流会	-	譚 俊偉 赤澤 春香

(6)-3実践研修:「地域でつながる日本語教室」に日本語学習サポーターとして参加

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 14 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	7 人	自己紹介	自己紹介をするために必要 なあいさつ表現や語彙につ いて学び, 参加者間で実践 練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	-	-
2	平成 27 年 6 月 21 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	ごみの出し 方・公共マ ナーを理解 する	ごみの種類, 分別・回収方法 など, ごみ出しに必要な語 彙・表現を, 実物を使用しな がら学んだ。 【イベント】環境課職員による ごみ分別講習	-	-
3	平成 27 年 6 月 28 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	8 人	総社市役所 に電話して 外国人相談 員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を 学び, 市職員を相手に電話で 外国人相談員を呼ぶ実践練 習をした。 【イベント】エコバッグを作る	-	-
4	平成 27 年 7 月 5 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	7 人	地震・台風 について理 解する	地震や台風など災害時の対 策や避難方法に関する表現 を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	-	-
5	平成 27 年 7 月 12 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	7 人	浴衣の着付 け講習	日本伝統文化である浴衣に ついて学び, 実際に学習者・ サポーターと一緒に浴衣を 着付け合った。	-	-
6	平成 27 年 7 月 19 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	公共交通機 関の利用方 法	公共交通機関の予約方法や 時間の表示方法に必要な表 現を学んだ。 【イベント】デマンドタクシー 「雪舟くん」利用説明	-	-
7	平成 27 年 7 月 27 日(日) 8:00-10:00	2 時間	常盤公園	5 人	地域コミュ ニティ連携 防災訓練	地域コミュニティ連携防災訓 練に参加し, 日本人住民と一 緒に防災について学んだ。	-	-

8	平成 27 年 8 月 2 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	4 人	書道を習う	日本文化の一つである書道 について概略を学び、書道講 師により実践的な指導を受け た。	-	-
9	平成 27 年 8 月 9 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	日本のマナ ーを知る	日本の葬式に関する習慣(香 典、焼香、服装など)や決まり 文句について学んだ。 【イベント】お葬式のマナーを 学ぶ	-	-
10	平成 27 年 8 月 23 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社宮	6 人	総 社 の 行 事・イベント に参加する	地元の行事「総社力石」に参 加した。	-	-
11	平成 27 年 8 月 30 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	4 人	メニューを 読んで理解 する	レストランや飲食店のメニュ ーを読むために必要な語彙と 注文をする際に必要な表現 を学んだ。 【イベント】食べ物の名前ゲー ム	-	-
12	平成 27 年 9 月 6 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	8 人	総社市役所 の窓口で相 談する・書 類を書く	総社市役所での窓口相談に 必要な表現を学び、市役所 の書類を使用して書類を書く 練習をした。 【イベント】「あ」から始まる言 葉ゲーム	-	-
13	平成 27 年 9 月 13 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	4 人	サイズ・色・ 素材を尋ね て購入する	洋服や靴などのサイズ・色・ 素材を尋ねて購入するのに 必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言 葉ゲーム	-	-
14	平成 27 年 9 月 20 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	5 人	交通ルー ル・交通マ ナーを学ぶ	道路標識の種類・意味や、日 本の交通ルール・マナーに関 する語彙・表現を学んだ。 【イベント】交通安全・交通マ ナー講習	-	-
15	平成 27 年 9 月 27 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	日本・岡山 の観光地、 名物名産を 知る	日本国内・岡山県内の観光 地・祭り・イベントや名物名産 について知り、それらの情報 を得るための表現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準 備	-	-
16	平成 27 年 10 月 4 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	3 人	交通事故・ 犯罪事件で 110 番・119 番に電話す る	交通事故・犯罪事件で 110 番・119 番に電話通報するた めに必要な表現を学び、実践 練習をした。 【イベント】中間アンケート	-	-
17	平成 27 年 10 月 11 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	警察見学・ 防犯教室	総社警察署で交通事故や犯 罪事件に遭遇した場合の対 処方法を学び、110 番に通報 する練習をした。	-	-
18	平成 27 年 10 月 17 日(土) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	-	国際交流イ ベントに参 加する	カミガツジブラザで開催され た「総社インターナショナルフ ェスタ」で各国料理販売、歌・ 踊りのステージに参加した。	-	-

19	平成 27 年 10 月 25 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	3 人	美容院・理 髪店に行く	美容院・理容院で使用する語 彙・表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まること ばゲーム	-	-
20	平成 27 年 11 月 1 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	8 人	症状に合わ せた病院探 し・初診受 付をする	症状に合わせた病院を探し、 病院での初診手続きを行うの に必要な表現を学んだ。 【イベント】岡山大学の学生と 会話する	-	-
21	平成 27 年 11 月 8 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市中央 公民館	7 人	茶道を習う	日本文化の一つである茶道 を習った。お茶のたて方、飲 み方、礼儀作法も学んだ。	-	-
22	平成 27 年 11 月 15 日(日) 9:30-12:00	2 時間	維新小学校	4 人	防災訓練に 参加する	総社市主催の防災訓練に日 本語教室として参加し、土の う積み訓練、煙体験、消火訓 練などを実体験した。	-	-
23	平成 27 年 11 月 22 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	3 人	医者の診察 を受ける・ 病気への対 処法	病院で診察を受ける際に必 要な語彙・表現を学び、実際 の診察室で実践練習をした。 【イベント】倉吉市からの見学 者と合同で「は」から始まるこ とばゲーム	-	-
24	平成 27 年 11 月 29 日(日) 9:30-12:00	2 時間	高杉こども クリニック	6 人	病院見学・ 受付・診察 体験	総社市内にある病院で病院 見学を行い、病院での受付・ 診察を模擬体験した。	-	-
25	平成 27 年 12 月 6 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	買い物体を 験する	日常生活の活動として頻度 の高い「買い物」を取り上げ、 買い物行為に必要な語彙・表 現を学び、シミュレーションを 行った。 【イベント】買い物ゲーム	-	-
26	平成 27 年 12 月 13 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター、 総社市立図 書館	6 人	図書館・レ ンタルショ ップの利用方 法・図書館 見学	本や DVD を借りる時や返却 する時に使う語彙・表現を学 んだ。 【イベント】総社市立図書館見 学	-	-
27	平成 27 年 12 月 20 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	5 人	年賀状を書 く	年末年始に使うきまり文句や 表現を学び、日本の年末行 事として年賀状を書く体験を した。 【イベント】年末茶話会	-	-
28	平成 28 年 1 月 10 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	慶事の文化 風習・マナ ーを学ぶ	日本の結婚式に関する習慣 (祝儀、服装など)や決まり文 句について学んだ。 【イベント】獅子舞	-	-
29	平成 28 年 1 月 17 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	3 人	職場でのあ いさつ・こと ばづかいを 理解する	職場での丁寧な言葉づかい やあいさつ表現、履歴書の書 き方を学んだ。 【イベント】「就労支援ルーム」 紹介・「し」から始まることば ゲーム	-	-
30	平成 28 年 1 月 24 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	6 人	道を尋ね る、道を教 える	道を尋ねたり、道を教えたり するために、場所や道順を教 える語彙や表現を学んだ。 【イベント】かるた	-	-

31	平成 28 年 1 月 31 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社消防署	2 人	消防署見 学、火災で 110・119 番 に電話する	総社市消防署で 110 番・119 番に通報する方法や防災に ついて学び、消火訓練を行っ た。	-	-
32	平成 28 年 2 月 7 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	9 人	薬局を利用 する。薬の 説明を理解 する	薬の種類、薬袋や処方箋に 書かれてある語彙・表現を市 販の薬など実物を利用して学 んだ。 【イベント】節分の歌・豆まき	-	-
33	平成 28 年 2 月 14 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	8 人	学校の制度 や学校の行 事を知る	日本の学校制度や学校行事 に関する語彙、季節・時間 に関する表現を学んだ。 【イベント】借り物競争	-	-
34	平成 28 年 2 月 21 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	7 人	日本の一年	日本の年中行事や祝日につ いて、具体的な行事の内容 や風習、謂れなどについて学 んだ。 【イベント】最終アンケート	-	-
35	平成 28 年 3 月 6 日(日) 9:30-12:00	2 時間	総社市保健 センター	11 人	引っ越しの あいさつを する	公共マナーと、引っ越しの際 に使う決まり文句や引っ越し のあいさつ時に贈る物につ いて学んだ。 【イベント】合同修了式	-	-

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第 2 回 平成 27 年 7 月 5 日】

「やさしい日本語」講座

講師:神戸 YWCA 学院 副主任講師 福井 武司

「やさしい日本語」に言い換えるポイントを実践的に学んだ。ブラジル人学習者、中国人学習者に協力してもらい、日本人サポーターが考えた「やさしい日本語」が本当に外国人に伝わるか、伝わらない場合どこをどう変えたらよいかを体感できるワークショップを行った。



取組事例②

【第 4 回 平成 27 年 9 月 13 日】

日本語を知らう②語彙文法

講師:総社市日本語教室 宮崎 聡子

日本語教室の講師による語彙文法に関する講義が行われ、日本人にとっての日本語の文法がどのように法則化されたか、外国人の日本語の間違いはなぜ起きるかを学んだ。



(8) 目標の達成状況・成果

・本市に暮らす地域住民を対象に、外国人支援に関する基礎的知識を教授する「(ア)学習研修」と、本市に開設する日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「(イ)実践研修」の 2 つの研修を行った。また、市民であり、かつ、外国人支援の最前線にいる市職員に対する「やさしい日本語」研修を今年度初めて行った。毎回の授業終了時に行うミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、日本語学習サポーター育成研修受講者に対して行った中間・最終アンケート調査の結果により検証を行い、一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ①外国人支援に関する基礎的知識の習得:「日本人なのに日本語が難しく感じたり、理解できない部分があると実感した」「適切にサポートできる知識、スキルは必須だと思う」といったコメントが寄せられ、普段の教室活動を通じて感じる基礎的知識を習得することの重要性が認識された。
- ②外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得:「外国人受講者が一生懸命学習する姿を見て自分が励まされた」「外国の異文化・習慣を知ることができた」「総社に暮らす外国人の方の役に立てているのかなと思える」「普段使っている日本語について考えるきっかけになった」といったボランティア参加を行うことで誰かの役に立っているという喜びとともに、外国の文化や習慣を知るだけでなく自国のことについても改めて考えることの必要性が感じられるコメントが寄せられた。
- ③地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り:H24 年度から開始した「日本語学習サポーター」という仕組みを導入して 4 年目を迎えたが、継続して参加するサポーターの数が増え、サポーター同士のつながりも広がりを見せ、より一層この仕組みがうまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられ、外国人支援や多文化共生に対する地域住民の意識啓発につながったものと考えられる。また今年度はサポーター自身による「浴衣の着付け」(H27 年 7 月 12 日)を行うことができ、サポーターの成長と自主的活動の広がりを見ることができた。

(9) 今後の改善点について

・「日本語学習サポーター」という仕組みは本市教室のスタイルとして定着しつつある。だが一方で、地域全体における日本語教育事業の認知度はまだそれほど高くなく、日常生活における日本人住民と外国人住民との接触が非常に少なく、外国人支援や多文化共生に対する意識もまだ低いため、今後も人材の確保・育成を継続して行っていきたい。

取組3:地域コミュニティ連携防災訓練事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・地域に暮らす外国人住民に対し、地域コミュニティ、外国人防災リーダー、行政が連携し、外国人集住地区という、より現実的な地区単位において防災訓練へ参加する機会を提供し、外国人住民の立場に立った防災知識の習得と災害時のより実用的な日本語習得を目指すとともに、日本人住民と日常からの「顔が見える関係づくり」を行い、日本語が理解できない等、情報伝達ができないことによる災害時要支援外国人住民を減少させるとともに、日本人住民に対して外国人支援意識の向上・啓発を図る。

(2) 取組内容

- ・外国人住民が多く居住する地区の地域コミュニティと連携し、地域コミュニティ主催の防災訓練に外国人住民が参加し、防災知識や災害時の日本語を体験的に学習する。地域の防災訓練に外国人住民が参加することで、地域の一員として日本人住民と「顔が見える関係づくり」ができ、お互いにコミュニケーションをとれるようになることにより、日常会話をする機会も増え、日本語学習意欲の促進や日本語能力の向上も期待できる。

(3) 対象者

- ・地域に居住する日本人住民及び外国人住民

(4) 参加者の総数 150 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 34 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
5	0	18	3	0	0	1	0	3	116

※その他の国籍と人数:ミャンマー2人、パナマ2人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 2 時間 (2 時間 × 全 1 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 7 月 27 日(日) 8:00-10:00	2 時間	常盤公園 (防災公園)	150 人	地域コミュニティ連携 防災訓練	防災担当課による公園内設備の紹介、外国人向けの災害時に使う日本語講習。先進自主防災組織による取り組み紹介。外国人防災リーダーによる外国人防災カードの記入方法レクチャー。地震体験訓練等の体験型訓練の実施。	譚 俊偉	譚 俊偉 赤澤 春香

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第 1 回 平成 27 年 7 月 27 日】

講師:神在コミュニティ協議会 会長 平松 秀昭

常盤小学校区地域づくり協議会 会長 来見田 芳男

大字下原自治会 会長 川田 嘉

総社市総務部危機管理室 主査 中島 俊明

総社市市民生活部人権・まちづくり課 多文化共生推進員 譚 俊偉

市内にある防災公園「常盤公園」で、地域の日本人・外国人住民を対象に防災訓練を実施した。全体に向けて防災担当課が公園内にある災害のときに役に立つ設備の紹介をしたほか、総社市内自主防災の先進組織である大字下原自治会の会長から、自主防災組織の取り組みの紹介も行った。また外国人参加者に向けて、防災担当課から災害時に使う日本語の講習を行った。教材は、文化庁委託事業で作成した教材「地域でつながる日本語教室」の中から防災に関わる箇所を抜粋し活用した。そのほか総社市外国人防災リーダーが外国人防災カードの記入方法をレクチャーし、外国人防災カードの普及・啓発につなげた。体験型訓練として、地震体験訓練、煙体験訓練、簡易担架づくり訓練、非常食作成体験等を実施した。



(8) 目標の達成状況・成果

・今年度初めて実施した本事業は、外国人住民が多く居住する地区の地域コミュニティと連携し、これまでは日本人住民が主に参加していた地域コミュニティ主催の防災訓練に外国人住民が参加するという画期的な試みである。防災訓練を通して防災知識を身に付けるだけでなく、体験的に日本語を学習することを目的とした。行政と連携し、地域コミュニティの多大なる協力により、多くの地域住民が防災訓練に参加し、日本語教室に通っている外国人住民だけでなく、日頃、日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。

(9) 今後の改善点について

・今年度初めての試みであったので、今後継続していく中で少しずつ具体的な成果が得られるようになっていこうが、防災訓練を通じ、地域の一員として日本人住民と「顔の見える関係づくり」ができ、お互いにコミュニケーションをとれるようになることによって、日常会話をする機会も増え、日本語学習意欲の促進、ひいては日本語能力の向上も期待できる。また、防災訓練に参加する日本人住民に対しては、外国人支援意識の向上・啓発を図ることができると考えられる。

取組 4: 地域ではぐくむ子育て応援事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・市内の保育・子育てNPO 法人との連携により、子育て世代の外国人保護者と子供を対象に、同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識を学びながら育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、日本人保護者と子供等との交流の場を通じて、地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで、外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育てを応援する。

(2) 取組内容

・親子サポートを行う NPO 法人と連携し、子育て支援事業に外国人親子が参加できる体制を整え、育児に関する基礎的知識や子育てに関する日本語を学び、親子で一緒に遊んだり、利用者同士で話をするなど楽しみながら日本語の習得を行う場を提供するとともに、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人保護者が日本人保護者との交流を深め、情報を得られる場として機能させる。

(3) 対象者

・地域に居住する外国人親子及び日本人親子

(4) 参加者の総数 24 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 24 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
3	0	9	0	0	0	0	0	1	9

※その他の国籍と人数:ミャンマー1人, アルゼンチン1人

(5) 開催時間数(回数)

・ 10 時間 (2 時間 × 3 回 + 4 時間 × 1 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 21 日(日) 10:00-12:00	2 時間	総社ふれあいセンター2階大会議室・センター近くの公園	0 人	家族であそぼ!	小学生とその家族を対象とした、昔遊びの技を身につける交流するイベント。 ※外国人参加者ゼロ。	-	-
2	平成 27 年 8 月 4 日(火) 10:00-12:00	2 時間	総社ふれあいセンター2階大会議室ほか	7 人	いっしょにあそぼ!	未就学児とその家族を対象としたブース型イベント。エプロンシアター、紙芝居のほか、手作りおもちゃコーナーなど。	-	-
3	平成 27 年 10 月 6 日(火) 10:00-12:00	2 時間	天満屋ハピータウンリブ総社店 3 階 なかよし広場 びよこっこ	11 人	インターナショナル子育てサロン	外国にルーツを持つ 3 歳までの乳幼児とその保護者が集まる「子育てサロン」。自己紹介、交流ゲーム、子育てに関するおしゃべりなど。	-	-
4	平成 27 年 11 月 14 日(土) 10:20-14:30	4 時間	総社市総合福祉センター	16 人	チュッピータウンへ行こう!	主に乳幼児～小学生とその家族を対象としたブース型イベント。ステージでの音楽パフォーマンスや人形劇のほ	-	譚 俊偉 (全日程) 赤澤 春香 (10:20-12:0

						か、手作りおもちゃコーナー、お琴体験コーナー、スラックライン体験コーナーなど。	0のみ)
--	--	--	--	--	--	---	------

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第3回 平成27年10月6日】

「インターナショナル子育てサロン」

連携先:子育て応援こっこ

ポルトガル語・中国語・英語に訳したチラシを作成し、外国人対象世帯へ送付。当日は、自己紹介(出身、こどもの名前、好きなことなど)、簡単な交流ゲームをした後、「子ども同士のトラブル…どう解決する?」というテーマでおしゃべりタイムを設けた。子育て文化の違いを知ることができただけでなく、国に関わらず共通の悩みがあることを共有できる場となった。



取組事例②

【第4回 平成27年11月14日】

「チュッピータウンへ行こう!」

連携先:NPO 法人保育サポートあい・あい

補助者:総社市市民生活部人権・まちづくり課 多文化共生推進員 譚 俊偉, 赤澤 春香

ポルトガル語・中国語・英語に訳したチラシを作成し、外国人対象世帯へ送付。当日は、音楽パフォーマンス、人形劇等のステージイベントのほか、バルーンアート、昔遊び、お琴体験、スラックライン体験、もちつき等のブースを自由に回りながら参加した。スタンプラリーのルールを書いた説明用紙も多言語に訳し、当日外国人参加者に配付した。会場には通訳を配置し、適宜通訳した。また、各外国人家族が会場を回りやすくするために、会場内にはポルトガル語・中国語・英語に訳した案内表示を貼った。日本人参加者約1,000人という大規模イベントの中、少数の外国人親子も自然に参加できる体制で臨むことができ、日本人参加者との交流も行えた。



(8) 目標の達成状況・成果

・外国人親子に対して「子育て」に関する情報を得られる場があるという生活情報を提供でき、外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場として機能させることができた。また、多言語による案内表示をするなど、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(9) 今後の改善点について

・今年度初めての試みであり、周知方法や事業実施の際にうまく連絡の行き届かない点があったが、本市保育・子育てサポートを行う NPO 法人との連携はスムーズで、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行うための第一歩となった。今後改善を図ることで、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促していきたい。

7. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・今年度「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」においては、以下の取り組みを行った。

【取組1】「地域でつながる日本語教室」

【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」

【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」

【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」

各取り組みについての目標達成状況・事業の成果については、毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」、ミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、および、毎月1回行うコーディネーター・教授者・市職員との打ち合わせ会、日本語教室受講者・日本語学習サポーター・教授者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により検証を行い、一定の成果を上げることができたことが確認された。

・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上、地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供、地域住民同士がつながる場の提供、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り、という点において一定の成果が認められた。総社市日本語教室における外国人向け体験学習・講習会の実施は総社

市各担当部署(環境課美化推進係, 交通政策課, 総社警察署, 総社市図書館, 総社市消防本部), また, その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は, 岡山県内の NPO, 各種機関・団体(徳真書道教室, (株)いのうえ, 茶道講師, 高杉こどもクリニック)との連携により行った。

・【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」においては, 外国人支援に関する基礎的知識の習得, 外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得, 地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りという点において一定の成果が認められた。外国人支援に関する基礎的知識の教授においては, 神戸 YWCA 学院教授陣・岡山大学教授陣らに協力を仰いだ。

・【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」においては, 行政と連携し, 地域コミュニティの多大なる協力により, 多くの地域住民が防災訓練に参加し, 日本語教室に通っている外国人住民だけでなく, 日頃, 日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。

・【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」においては, 「子育て」に関する情報提供, 外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場の提供を行うことができ, 従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで, 地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(3) 地域における事業の効果, 成果

・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては, 地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら, 日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに, 日本の文化・習慣および医療・福祉・教育・防災などの行政情報を得, 外国人住民の自立と積極的社会参加を促すこと, 【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」は, 日本語教室の開設・運営にあたり, 地域住民を対象に, 外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに, 外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら, 多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い, 継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行うこと, 【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」は, 外国人住民に対し防災訓練へ参加する機会を提供し, 外国人住民の立場に立った防災知識の習得と災害時のより実用的な日本語習得を目指すとともに, 日本人住民と日常からの「顔が見える関係づくり」を行い災害時要支援外国人住民を減少させるとともに, 日本人住民に対して外国人支援意識の向上・啓発を図ること, 【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」は, 市内の保育・子育て NPO 法人との連携により, 子育て世代の外国人保護者と子供を対象に, 同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し, 子育てに関する日本語の習得を目指すとともに, 日本人保護者と子供等との交流の場を通じて, 地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで, 外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し, 地域全体で子どもの健やかな成長を見守り, 子育てを応援するものである。

これまで行ってきた【取組1】【取組2】に加え, 【取組3】【取組4】を行うことにより, 日本語教室に来ることのできない外国人住民に対して, 日本人住民との交流の場を提供することができた。そして, この 4 つの取り組みすべてが「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」として有機的に繋がり連携し合い, 総社市に暮らす地域住民が外国人住民の生活サポートの一環としての日本語教育に参加することで, 地域の多文化共生施策を推進するとともに, 継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築に寄与するものと考えらる。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果

・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署（環境課美化推進係、交通政策課、総社警察署、総社市図書館、総社市消防本部）との連携により行う外国人向け体験学習・講習会の実施、岡山県内の NPO、各種機関・団体（徳眞書道教室、(株)いのうえ、茶道講師、高杉こどもクリニック）との連携による生活情報・行政情報の提供、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジル人コミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントの開催・地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育て NPO 法人との連携による子育て応援事業の実施のほか、岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動・相互連携等については以下の通りである。

■日本語教室視察

- ・岡山大学地域総合研究センター准教授・非常勤研究員（平成 27 年 7 月 12 日）
- ・江田島市議会議員、えたじま国際交流ボランティア、岡山大学グローバルパートナーズ日本語講師（平成 27 年 7 月 19 日）
- ・文化庁文化庁国語課日本語教育専門職員 2 名（平成 27 年 10 月 4 日）
- ・鳥取県倉吉市企画振興部人権局人権政策課・倉吉市日本語学習会 28 名（平成 27 年 11 月 22 日）

■岡山大学教養教育科目「現代ブラジルの環境と社会」におけるフィールドワーク（岡山大生による日本語教室見学・日本語学習者との交流）（平成 27 年 11 月 1 日）

■NHK テレビ広島放送局取材「地域日本語教育の実情と課題」（平成 27 年 11 月 20 日）

■「多文化共生推進ワークショップ in 中国」でのグループ WS ファシリテーター参加（平成 27 年 11 月 29 日）

■出雲市役所（総合政策部政策企画課国際交流室）への視察・情報交換（平成 27 年 12 月 16 日）

■外国人集住都市会議「はままつ 2015」への出席（平成 27 年 12 月 17 日）

■コーディネーターである岡山大学大学院准教授との共同調査研究「総社市における多文化共生推進施策に関する意識調査」の実施（平成 28 年 1~2 月）

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・事業の周知・広報は総社市ホームページ、広報誌「そうじゃ」、外国人向け広報誌、総社ブラジル人コミュニティホームページ、Facebook 等で行ったほか、以下の講演・研修会活動を行った。

■平成 27 年度ひょうご国際交流団体連絡協議会総会・分野別セミナーでの講演・意見交換会（平成 27 年 6 月 5 日）

■広島県江田島市役所での外国人支援に関する講演・意見交換会（平成 27 年 8 月 2 日）

■平成 27 年度文化庁日本語教育大会事例報告・ポスター発表・分科会報告（平成 27 年年 8 月 28 ~29 日）

■平成 27 年度文化庁日本語教育協議会事例報告・ポスター発表（平成 27 年 10 月 3 日：大阪、10 月 24 日：福岡）

■文化庁広報誌ぶんかる「地域日本語教室からこんにちは！」への寄稿（平成 28 年 3 月分）

■呉市教育委員会での地域日本語教室ボランティア向け講演・WS（平成 28 年 3 月 26 日）

(6) 改善点, 今後の課題について

- ・日本語教室に来ることのできない外国人への日本語学習支援:日本語教室の存在が地域社会に徐々に周知され始め、「地域住民同士がつながる場」として機能し始めたことは事業の大きな成果ではあるが、一方で、日本語教室に来たくても来られない外国人住民や、地域社会で暮らしていくうえで日本語教育が必要であると考えられるにも関わらず日本語学習をしない(できない)外国人住民がいる。今年度初めての試みとして【取組3】【取組4】を行ったが、この問題の解決に向け、今後も継続して考えていきたい。
- ・地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査:本市総合政策部政策調整課による外国人住民に対するヒアリング(平成 27 年 7 月 12 日)が行われた際、外国人住民から出された意見の中に、就労に関する要望が出された。その後、外国人研修生・技能実習生を雇用する市内食品会社に聞き取り調査に行ったところ、外国人就労者への日本語教育・日本語習得について悩みを抱えていること、また今年度顕著となったベトナムからの技能実習生の急増に対して大きな不安を抱えていることが明らかとなった。今後も技能実習生の増加がしばらく続くと考えられるため、外国人就労者の問題について、企業と行政とが日本語教育支援という点で連携ができないかどうか検討していきたい。

(7) その他参考資料

- ・平成 27 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム
- ・日本語教室受講者用募集チラシ
- ・日本語学習サポーター育成研修受講者募集チラシ
- ・日本語教室受講者用中間アンケート結果
- ・日本語教室受講者用最終アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用中間アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用最終アンケート結果
- ・日本語教授者用中間アンケート結果
- ・日本語教授者用最終アンケート結果
- ・文化庁日本語教育大会・研究協議会でのポスターセッション資料